

現場力 人間力

現場品質を支えるプロフェッショナルに聞く



株式会社 浩技陶 代表取締役 大沼 光浩 氏

苦勞してきた人たちに夢を見せてあげたい。
そして、職人が社員としていっぱいいる組織にすることが自社の強みにもなると思っています。

—仕事内容をお聞かせください。

建設業のタイル工事業で、新築、改修すべてやっております。あとは左官工事は改修が中心、下地補修や注入工事もやります。ビルやマンションなどのコンクリート躯体補修工事が多いです。もともとは新築のマンションや店舗のタイル張りだけでしたが、リーマンショック前後から仕事が減り、新たに改修も始めたところ継続的に安定して仕事があるため今はそれが主になっています。

—この仕事を始めたきっかけは？

親父がずっとやっていました。私は7人兄弟の6番目で、長男とは10歳以上離れていて、自分が小学校に上がる時には長男は高校中退してすでに働いていました。兄貴と親父の姿がカッコよく見えて、おもしろそうな仕事してるなと思っていました。

兄弟が多くて親も大変だったと思うけど、小さい頃から貧乏暮らしで、家の電気や水道が止まったりはしょっちゅう。中学生の時に親が離婚して自分は母親と暮らし始めましたが同じような状況です。家庭が荒れると自分も荒れる。

悪さもいっぱいしました。中学卒業後は土方みたいなことを1年半くらいやったりしながらプラプラしていた。その頃は親父と兄貴たちは東京で仕事をしていたので母親から半分強制的にそこへ行かされます。ちょっと失敗したら怒鳴られたり蹴りが飛んできたりとキツかったけれど、仕事は楽しかったです。

—では、跡を継いだのですね。

創業ですけど半分2代目のような、中間ですね。やっているメンバーも同じですし。一番の柱だった長男が結婚を機に仕事を辞めたことが大きな出来事でした。他の兄貴たちもいたけれど途中から自分がメインでやるようになって、今みんなを置いて出て行けないと、ものすごく悩みました。でも27歳の時、結婚を決めて独立することも決めました。親父がタイルを貼っている姿とか熱意は好きだったけれども、経営的には全くダメでしたから。本当は親父の息のかかってないところで独立したかったけどその力はなくて、今もお付き合いしている元請けさんのサポートを得ながら、お金の管理も自分ができるようにしました。揉めましたけど、もう有無を言わずという感じでした。

それでも親父には感謝しています。今も一緒にやり、体も動かないけどがんばってくれています。独立して2年後に株式会社にして、社会保険にもすぐ入りました。給料が安定してもらえて保証もあるということが何よりも自分が欲しいものでした。今年6期目、創業して8年目です。

—やりがいや喜びを感じるのはどんな時ですか？

経営者団体（東京中小企業家同友会）に入る前と入った後とは違っています。入る前はやはり職人としての気持ちが強いから、自分の思うとおりの仕事ができたと、お宅に頼んだらきれいに仕上がったよと言われることがうれしかった。でも経営者として学び始めると、職人としてやっている経営者ではダメなわけで、現場に入っても気持ちが変わってしまっているとは思いますが。今は新しいお客さんから仕事を頂けただけでうれしいし、困った時に声を掛けてもらえたりすることが喜びと言えるかもしれません。誰かの紹介で仕事を頂けたりするのは以前の自分には考えられなかったことでした。コミュニケーションも下手だし、それでも少しずつでも成長できているのかなと思えることも喜びなのかもしれません。

—自信をなくしたり、忘れられない失敗談などはありますか？

常に不安ばかりで基本的に自信がないのです。でも自信をつけるためには経験値が必要で階段を一步ずつ上がらないとダメだとわかり、失敗してもあきらめずに挑戦していかなければいけないと思っています。仕事に対してブレない自分がまだ見つかっていませんが、経営者はバランス感覚が大事だとよく聞くので不安な時は経営者仲間に相談したり、調子のいい時は自分を信じてやるしかないと思っています。

売り上げ的にもなんとなく上手くやって来ましたが、前々期に初めて赤字をしてしまいました。数字のことが全然分かっていなかったからです。それまでの貯えと銀行から短期で借りて凌げたけれど、今のところそれが一番大きい失敗です。家族でやっていますから自分を含

めてみんなの給料も下げたら少し落ち着いて、立て直せました。

—どんな人と一緒に仕事をしていきたいですか？

そんなにいるかどうかわからないけれど、自分と同じような境遇というか苦勞してきた人に夢を見せてあげたい。だからそんな人をいっぱい雇っていきたいです。苦勞してきた人はストイックさとかハングリーさがあるだろうし、苦勞してきたほど人間が強くなると思うから。まだまだ上手くはいかないけどここまでできるということを自分が証明したい思いもあります。職人がいっぱいいる会社になりたい。この業界では個人事業主たちを外注や専属契約などで集めてやっているところが多いので、自社の社員として抱え、そういう組織にしていけば他にはない強みになるし、育成もしていきたいです。

職人と言いががダメだという人もいます。私



はそうは思っていないんですが、調べてみると、技術というのは紙や映像などで伝達できたり人から聞いて覚えられる知識であり、技能とは知識を持ちながらもそれを超えて、自分の感覚として編み出したり人から受け継ぐ部分とありました。感覚的な部分、センスをブラッシュアップし、自らこうなりたいと思わないと凡人のところで終わってしまいます。それだと職人として働いていても面白くないですよ。自分の経験からもそう言えます。ライバルがいたり、もっといい仕事をしようと思ったりしながら、やればやるほど違うやり方が見つかったりしますから。きれいに、早く、自分の思うことができる技術や技能を持ってほしいと思っています。